

高松塚古墳壁画 発見から50年

公開施設 29年度までに

「飛鳥美人」として知られる国宝・高松塚古墳壁画（奈良県明日香村、7世紀末～8世紀初め）は21日、1972年3月21日の発見から50年を迎えた。極彩色で描かれた壁画は、考古学や美術史上の一級資料として74年に国宝指定。図像を使った切手が1億枚以上売れるなど考古学ブームのさきがけとなった。

人物群像、四神、星宿図



西壁女子群像（いずれも奈良県明日香村の修理施設（代表撮影））

などの壁画は唐や高句麗との関連も指摘されている。国が管理し、非公開だったが、2004年6月にカビなどによる劣化が判明し大問題に。その後石室は解体され、明日香村の仮設修理施設で12年間に及んだ修復は20年3月に完了した。

壁画は、修理施設で年に数回、ガラス越しで一般公開されている。文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」では17日、壁画を保存、公開する新施設を29年度までに修理施設の近くに建設する構想が示され



壁画の脆弱性を示す写真。東壁女子群像ではしつこくに細かなひび割れが見られる

た。壁画の安住の地となるか注目を集めそうだ。

文化庁は9日、壁画が置かれていた修理施設の作業室内へ報道陣の入室を許可し、発見から半世紀を経た壁画がお披露目された。報道陣が作業室に入るのは10年ぶり。

石材の上面に、色鮮やかな服を着た人物像や、迫力ある四神図が描かれている。壁面のしつこいひび割れている箇所もあるが、人物像の表情や、四神の細やかな描写とカラフルな色合いは保たれている。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①発見から50年を迎えた国宝・高松塚古墳壁画の人物群像は何という愛称で知られていますか。

②何世紀ごろの壁画ですか。

③人物群像以外にどのような壁画がありますか。またどんな国との関連が指摘されていますか。

④2004年6月に判明し大問題になったことは何ですか。

⑤高松塚古墳についてさらに調べてみよう。